

(議長)

次に、小梅議員の発言を許可致します。

「小梅議員」

はい、議長。

(議長)

「小梅議員」。

「小梅議員」

こんにちは。午後から1番、小梅でございます。

早速、まず1番目、ドッグラン、犬の遊び場の必要性についてお聞き致します。

爽やかな大変良い季節になりました。町歩きの観光客も随分目につきまして、例年にない動きを感じております。これから夏場に向けて、だんだんと車で訪れるお客さんも増えてくると思います。例年、開陽丸周辺の朝の賑わいはびっくりするほど、どこからこんなに来るのだろうと思うほどキャンピングカーとかたくさん溢れております。聞きますとトイレとかお水とか、景色がとっても綺麗で最高の場所なのだったってお話でございました。

その方々の中で、ペット連れの方が随分多くいらっしゃいます。もう今は、ペットは本当子供以上みたい大事にされていて、家族の一員。本当に、本当に大事にされているという様子が良く分かりました。

そんな旅行者の方の会話の中で、ここにドッグランがあったら最高に良いねということをよく聞きました。その辺りは、全く大した深くも考えないで、聞き流していたのですけれども。この頃の風潮と致しまして、飛行機とか、列車、ホテル、レストラン等でも、ペットに関しても様々な対応がなされてきて、それがまた人気に繋がっているという現状が、現状でございます。これも時代の流れなのかなって思いながら、それではやはり、江差でも、ドッグランというのが必要なのかなと考えるようになりました。

それで、犬を飼っている町民の方々にも聞いてみました。そしたらやっぱり皆さん、あったらうれしいよって。是非利用したいって声が随分とありました。飼い主さんもだんだんと高齢化になっていまして、散歩するのも大変なのだそうです。そういう所があればその場所までは車で行くから、そこでワンちゃんを放して、遊ばせながら自分もそれを見ながら楽しみたいって、とてもあったらいいねっていうお話を、話を聞きまして、私もそういう風なのがあったらいいのかなって思いましたので、今ここに提案させていただきます。いかがお考えでございましょうか。

「町長」

議長。

(議長)

「町長」。

「町長」

小梅議員の1問目、ドッグランの必要性についてご答弁申し上げます。

人と動物の共生社会にあつて、動物愛護に対する関心は年々深まりを見せており、ペットに対する公共の場の在り方も多様化しているところでございます。

議員ご指摘のドッグランについては、全国的に高速道路のパーキングエリアや公園の一部を利用して整備しているものが顕著であり、その数は、近年の愛犬ブームを背景に拡大傾向にあります。

また、本町においても、過去に開陽丸周辺にドッグランを整備してはどうかとの職員から提案された経過もあり、これらを踏まえ、町としてドッグランの整備について、場所・規模・管理の在り方等や、公共の場における遊び場の確保については、一定程度、町民の理解も必要となることから、様々な角度から前向きに検討を行つて参りたいと考えておりますので、ご理解の程、宜しくお願ひ申し上げます。

「小梅議員」

はい、ありがとうございました。幸いあの今なんか

(議長)

「小梅議員」。

「小梅議員」

ごめんなさい。開陽丸周辺の整備とかお話が出ていますので、ペットを巻き込んだあの飼い主さんと、またその辺を遊びに来ている子ども達ともなかなか動物と触れ合う機会もないですので、一緒になって少し賑やかな、違う形の賑やかさが生まれる可能性もあるのではないかなと思つていますので、どうぞ宜しくお願ひ致します。

(議長)

答弁いいですか。

「小梅議員」

はい、宜しいです。

(議長)

はい、では2問目の質問。

「小梅議員」

そうしたら、次2番目。子ども食堂について、でございます。

貧困とか孤食、それから孤立防止に安価で食事提供をとか、子どもの居場所作りに子ども食堂を、っていう報道をこの頃良くあの見聞きするようになりまして、とっても寂しいことだなって、やるせない思いをしております。経済的な貧困とか、親の育児放棄など、様々な理由で食事を取れない子、家でも居場所がなくて帰っても寂しいだけとか、また不登校の子ども達もいるようで、辛い思いの子ども達がたくさんいるのだなと思って、心を痛めております。

都市部だけでもないような感じで、特に北海道での貧困率が高いと言われてはいますが、江差の子ども達、特にあの私の知る限りの近辺の子ども達を見ていると、とってもみんな元気で明るくて挨拶も良くて、見かけだけではとってもそんな風なことが起きているという想像が出来にくい状態でございます。そして本当に子ども食堂なんかそういうものを必要としているような辛い思いをしている子ども達が、現在江差にもいるのか、もし分かりましたらその辺の実態をお聞きしたいと思えます。

「町長」

議長。

(議長)

「町長」。

「町長」

小梅議員の2問目、子ども食堂についてご答弁申し上げます。

子どもが一人で食事をする孤食を防ぎ、暖かな食事を楽しめる場を提供する取組みが、東京都など全国の都市部で広がりを見せています。

ご指摘のように子どもの貧困問題が、昨今の家庭環境の問題などから、都市部に留まらず地方にも拡大してきているのでは、という心配もございます。子どもの貧困に関する指標としては、サンプリング調査ではありますが、平成25年国民生活基礎調査において、子どもの貧困率が16.3パーセントになっています。

ご質問の本町における子どもの貧困に関する実態調査については、行っておりません。

子ども食堂のご提案について、貴重なご意見としてお受けしますが、今後、国や道で進められる子どもの貧困に対する具体的な制度施策を踏まえ、行政として対応しなければならないもの、あるいは NPO 法人や任意団体が自発的に展開した場合の町の支援策の必要性など、町として可能な対策を検討して参ります。

(議長)

いいですか、「小梅議員」。

「小梅議員」

はい、ありがとうございました。幸い江差には、なんかそういうような子があまりいないみたいな感じで安心しております。

質問とかそういうのではないのですけれども、食べることの大切さっていうことをつくづく感じたことがあります。それは3月の末だったと思うのですが、NHKのテレビ放送でやっていたのですが、都市部に住む大学生、結構な何百人もの生徒さんでしたけど、その方々にアンケートを取りまして30年後にどんな町に住みたいかっていうことを議題にしてやったそうです。その辺り、やっぱり江差の、30年後の江差とかそういうことが話題になっていましたので、私もちょっと興味深く、どんな答えが返ってくるのか、あの若い大学生のことですから、明るい大きな何か希望があるのかなと思って期待して聞いていました。そうしたら意外と意外、第1番目に出てきたのは飯が食える町、そういう答えだったのです。ただ単にそう言って飯が食える町ってアナウンサーが言った時に、私はただ本当に単純にごはん食べるっていうのではなくて、生活が例えば安定して、きちっと生活が出来るとか、そういうもっと深い意味があるのかなと思って聞いていました。そうしたらねやっぱり子ども食堂のことだったのです。学校の給食室に無料か、格安で作る安い食堂をやっていて欲しい。それ聞いてね、本当にびっくりしたのです。ええって、本当にね、食べることに關してみんな大変なのかなって。意外な、そういう結果が聞いて、びっくりした覚えがあります。もっともっと大きなことが言われるのかなと思っていたのですけれど、でもやっぱり生きる基本、食べることってというのが大事なのだなと思って、改めて認識を新たにすることを覚えております。以上でございます。

(議長)

答弁はいいですか。

「小梅議員」

はい。

(議長)

はい。そうしたら3問目。

「小梅議員」

はい。

(議長)

3番目。

「小梅議員」

はい。

(議長)

はい、「小梅議員」。

「小梅議員」

はい。それから3番目。ふるさと納税の返礼品について、でございます。

先程、西海谷議員さん、議員から企業版のふるさと納税の話が出ていましたので、それとまた違って、私の場合は返礼品ってことで、どこの地域でもふるさと納税が今盛んになってきております。個人だけではなくて会社とか企業等、団体でのふるさと納税が可能になってきていまして、返礼、あの返礼品にはね、物でなくて、会社の社員旅行とかを兼ねて姥神大神宮渡御祭とかのそういうのへの参加体験を呼び掛けて、活用できればなって考えてみました。そうしたら特別物も用意しなくてもいいし、町の知名度も上がるし、祭りの運営の人手不足解消にも繋がるのではないかなと思っています。

今、日本の各地で文化財とかに認定されているようなお祭りでも、消滅寸前のお祭りがたくさんありまして、江差での祭り存続のためにも、是非そういうものと合体して実現して欲しいと思いますが、いかがでしょうか。

「町長」

議長。

(議長)

「町長」。

「町長」

小梅議員の3問目、ふるさと納税の返礼品に姥神祭りの体験をと、ご質問でございます。

姥神大神宮渡御祭は、祭典協賛実行委員会がその運営に務めていることは議員も承知のことと存じます。そこで、町と致しましては、実行委員会に対し、山車引き回し体験を観光、体験観光の商品化、商品にできないかと、呼びかけをしていきたいと考えているところであります。

実行にあたっては、引き受けて頂く山車保存会の了解が必要となります。また、半纏の貸し出しや返還をどのようにするか、弁当や保険料など料金設定をどのようにするのか、引き回し時間をどう設定するのか、集合場所、解散場所をどのようにするのか等、保存会との議論が必要になることが多くある状況です。

従いまして、今年度につきましては、ふるさと納税の返礼としてではなく、体験観光の拡充という視点で山車引き回し体験の取り組みを、祭典協賛実行委員会と協議をさせて頂く予定としておりますので、ご理解願いたいと思います。

「小梅議員」

はい。

(議長)

はい、「小梅議員」。

「小梅議員」

はい、分かりました。本当に受け入れ態勢を整えることや、あの組織作りは大変だと思います。

でもあの、先程萩原議員より、まちおこし協力隊の話も出ていましたが、この度ふるさと納税の返礼品開発担当の地域おこし協力隊員に江差町出身の若者が着任されたということを知りましたので、その方は祭りの大切さとか、楽しさも十分、熟知していると思いますので、良い具合に活かしていける、活かしていけるのではないかと期待しておりますので、宜しくお願い致します。以上で。

(議長)

答弁は要りませんね。

「小梅議員」

以上で終わらせて頂きます。

(議長)

はい、以上で、小梅議員の一般質問を終わります。